



相双COCOROニュースなごみ

第28号 2021年5月吉日

発行元 広報会員管理委員会

ホームページ <http://soso-cocoro.jp/>

Facebook <https://www.facebook.com/cocoro.nagomi/>

Instagram https://www.instagram.com/nagomi_soso/

Twitter https://twitter.com/nagomi_soso



InstagramとTwitter始めました!

2021年度 NPO 法人総会 & 茶話会

日時 2021年6月27日(日)

・総会 13:00~14:00... 当会正会員様のみ

・茶話会 14:10~15:30... 当会会員様に限らず

どなたでも

オンラインでの開催を
予定しております。
ぜひご参加ください!

Zoomによる配信

※詳細は別紙にてご案内いたします

10年ぶりの大きな揺れを経験して

2月13日に発生した最大震度6強の福島県沖地震。ケアセンターでは、20分ほどで全スタッフの安否確認がとれました。前回の東日本大震災の経験から、車のガソリンの残量にも気を付けておくよう指示しました。そして、私が持っていた放射線測定器で放射能数値をチェックしました。事務所の被害は少なかったのですが、後日、事務所の片付けを行いつつ、一人暮らしの高齢者、SOSを出せない方などをピックアップし状況確認を行い、被害の大きかった新地町や相馬市の行政に避難所などへの支援ニーズを確認しました。東日本大震災から10年。改めて、日頃の災害対応への意識づけの大切さを考えさせられる出来事でした。

(ケアセンター 米倉)

なごみ応援団 (NPO 法人の会員) を募集中です!

1. 正会員 年会費 10,000円
2. 賛助会員 年会費 一口 3,000円
3. 寄附

会費・寄附の振り込み方法：郵便振込

口座番号：02260-0-126825

口座名義：特非 相双に新しい精神保健福祉をつくる会

【新規会員のお申し込み方法】以下の方法で会員申し込み後、郵便振込にて会費を振り込んでください。

①FAX または郵送での申し込み：会員種別（正会員または賛助会員）・氏名・住所・所属先（職業）・電話番号・メールアドレスを明記の上、下記住所に申込書を郵送またはFAXしてください。

②なごみホームページからの申し込み：<http://soso-cocoro.jp/>

★会員になる

ボタンをクリックして申し込みフォームからお申し込みください。

当法人は認定NPOになりました。当法人への会費及び寄附は、寄附金控除の対象になります。詳しくはホームページをご覧ください。

【お問い合わせ】なごみ相馬事務所
〒976-0016

福島県相馬市沖ノ内1丁目2-8

電話 0244-26-9753

FAX 0244-26-9739

アドレス nagomi@soso-cocoro.jp

「それぞれの10年」 西内実菜

あちこちで「あれから10年」という言葉を聞きました。何を思えばいいのか分かりませんが、そうでもしないと忘れていく人もあるのだと思います。東日本大震災から数年が経った時、ある人が「亡くした人のことを話したら、何年も経つのにまだそんなこと言っているのか」と言われた。もう話せない」と言っていました。「あれから10年」と言われている今なら、再び話せるでしょうか。この10年の間にも災害で沢山の方が亡くなりました。すべてを覚えていることは出来ませんが、遠くからでも思い出して、気持ちを寄せることは出来ます。理由は違っても、生き残っている私たちの様々な「あれから10年」は繰り返されます。今年の3月10日は、東京大空襲から76年でした。昨年同時期に、75年経っても思い続け、毎年慰霊碑に足を運んでいると言う方の記事を読んだことを覚えています。これから66年後、今と同じ思いでこの地に足を運ぶ人がいることでしょうか。時間が過ぎても、失くしたもの、亡くしたひとへの思いは変わらないのだと感じます。

私の10年は、今ある非日常を日常のように過ごすことに終始しました。東日本大震災を機に沢山の人と出会えたことを本当に嬉しく思います。でも、家族や友人に震災で亡くした人はいませんが、親類や知人にはいて、今でもその方々を思うと苦しくなります。様々な体験を目の当たりにする時、自分のことを話す時は、涙が出ないようにお腹に力をいれて臨みます。仕事を、子育てを、震災がなくてもやっていたであろうことのようにやりました。なごみにいるのに、沢山の支援と期待を受けているのに、です。そうしないと、津波を経験したあの日に戻り、「あの震災がなかったら。事故がなかったら」と動けなくなってしまうのです。

自分のことを書くと楽しい内容にはなりませんでした。もう少し先になごみの10年が待っています。楽しみにして下さい。



震災から10年後の
南相馬市鹿島区の海岸線

それぞれの10年 ～立谷 洋～

2011・3・11、あの日から見てこの10年は何だったんだろうと考えた時、この10年という月日はまったく変わっていないと言えるものかもしれない。なぜなら私が住んでいる地域、私が携わっている仕事、私が支援させて頂いている人達が、今もまだあの時を引きずっているからだ。

あの日を境に常にあの日を思い出し、失ったものを埋めようとして辛く切ない思いを繰り返す。今現在が2011・3・11のまま、時計が2:46のまま止まっている方が数多くいる。その止まったままの時を動かそうとして苦しい思いをしている人達には、この10年という月日は関係ない。10年たって20年たってその切ない苦しい思いは消えない。

東日本大震災から10年ということでマスコミが取り上げることは、震災を忘れないためにも風化させないためにも必要だとは思っている。しかし普通にマスコミが使っている「10年の節目」という言葉に怒りを感じている遺族がいるのも事実である。「毎日が慰霊の日」「東日本大震災は10年たって今も現実」と思っている遺族の方もいる。

被災された人達にとって5年だから10年だから意味を持たないことだと思う。被災地に生まれ育った私にとって、被災地を支援する仕事に携わっている私にとって、これからも東日本大震災と毎日向き合っていく必要があると思うし、そうして行きたい。

こころのケアの仕事をさせて頂いて10年が経つ。支援が終了した方、支援途中で亡くなった方、また道半ばで退職していった同僚たち。みんなの顔が浮かぶ。

震災後、福島への支援に燃えて被災地に来てくれたNさん。お元気でしょうか。

Aさん。体調はもう大丈夫ですか。あなたの笑顔にはずいぶん助けられました。

そして最後までお酒を止められなかったSさん。福島第一原発の爆発当日、必死になって消火活動をしてくださいましたね。あちらでは美味しいお酒を飲んでいませんか。

東日本大震災・・・すべての人を・・・忘れない。

